

吉田 稔 筆

令和8年10月 No.158

● 編集・発行

柏市増尾・新柏地域ふるさと協議会
(増尾・新柏地区社会福祉協議会)

〒277-0033

柏市増尾三丁目1番1号

増尾近隣センター内

☎ 04-7174-7211



みんな元気 住んで良かった この地域

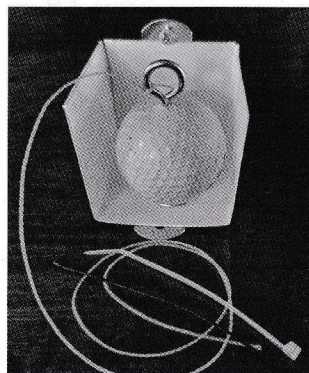
第3回市民講座 感震ブレーカーで地震火災に強い地域に 文化体育部

7月26日(日)に文化体育部主催「第3回市民講座 感震ブレーカーを自分で作って取り付けよう!」を開催しました。参加者は32名でした。講師は増尾町会感震ブレーカープロジェクトチームの代表川嶋元さんと4人のメンバーの方々です。

震度5強の揺れを感知するとブレーカーのスイッチを落とす感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを落とす余裕がなく避難する場合に電気火災、通電火災を防ぐ有効な手段となるそうです。今回はゴルフボールを使って簡易感震ブレーカーを作りました。

作業に入る前に消防庁制作「いま、備えよう。大規模地震時の電気火災対策」と横浜市危機管理室制作「通電火災をご存知ですか」の映像2つを見て、地震火災の怖さを学びました。

川嶋さんは「日本は4つのプレートに囲まれた地震の起こりやすい地震大国であり阪神淡路大震災では電気火災、通電火災による大規模な被害が発生しました。東日本大震災でも出火原因の半数以上が電気火災、通電火災と言われました。自分の家だけでなく周りの人にも声をかけ、地域で地震による火災を起こさないことが大事です」と説明してくれました。



手作り感震ブレーカー

簡易感震ブレーカーとは、分電盤に取り付けたゴルフボールとブレーカーのスイッチを紐で繋ぎ、揺れを感知した時に落下するゴルフボールの重みを利用してブレーカーのスイッチを切り、電気を遮断する仕組みです。今回はこの仕組みを作るキット ①丸環ネ

ジ付きゴルフボール ②紐 ③背面落下防止カバー(牛乳パックを使用) ④L字型金具(落下防止カバーの固定に使用) ⑤リング(台座に使用) ⑥ネジ(L字型金具の取り付けに使用) ⑦結束バンドと針金(ブレーカーのスイッチに紐を付ける時に使用)を使って作りました。

まず、牛乳パックを使った背面落下防止カバーを作り、リングを底面中央に両面テープで固定します。そこに紐を付けたゴルフボールを置き、ゴルフボールの紐をブレーカーのスイッチに結びます。出来た装置を分電盤の上に置くなど設置場所を決めて固定したら完成です。

分電盤は各々の家の設置場所、型式に違いがあります。ブレーカーの型式などを確認してから、感震ブレーカーの置き場所を見極めることが大事です。

参加者からは、多くの町・自治会に感震ブレーカーの作り方を教えて欲しいとの要望がありました。これを機に、増尾・新柏地域ふるさと協議会に加盟しているエリアで感震ブレーカーの設置を広めていけたら、地震火災に強い地域にするための小さな一歩になると思える講座でした。

文化体育部 小林 みつえ



感震ブレーカーの作り方の説明に聞き入ります

二人でクッキング 親子の笑顔あふれる時間 地区社協部

2026年の夏は35℃を超える酷暑！そんな中、8月2日（日）に増尾近隣センター調理実習室において、夏休み恒例の地区社協部主催「二人でクッキング」を開催しました。中学生に依頼したすてきなチラシのおかげで、受付開始直後には12組28名の参加者が集まりました。

当日はひとり1枚の手ごねピザや炭酸で「映える」ゼリー作りに挑戦しました。親子でじっくり料理を楽しむ笑顔あふれる時間になりました。

毎回、大人気でたくさんの方が参加して下さった「二人でクッキング」ですが、増尾近隣センター改修に伴い今回が最終回となります。長年、楽しく参加して下さった皆様ありがとうございました。

地区社協部 風間 理恵



この調理実習室でたくさんの
映えるデザートを作りました

地区懇談会 つながりを広げて円滑な活動 地区社協部

7月25日（土）に増尾近隣センターにおいて「つながりからともに創る 地域コミュニティの未来」をテーマに地区懇談会を開催し、町・自治会、地域団体、関係機関などから約30名の方にご参加をいただきました。

開催に先立って実施した事前アンケートには71件の回答が寄せられ、担い手不足や役員が担う負担、防犯・防災対策、高齢者の見守り、情報発信、地域のつながりなどさまざまな課題や意見が挙がりました。

当日は、その結果を共有した上でグループワークを行い、それぞれの地域で感じている課題や工夫について意見交換をしました。また、地域活動を活性化する取り組みの一例として、土地区青少年健全育成推進協議会における活動の工夫や子ども・学校をきっかけに地域のつながりを広げている取り組みについても紹介しました。LINEやSNSなどのデジタルツールを活用した情報発信や、世代に応じた伝え方についても話題となり、今後の地域活動のアップデートに向けて、参加者同士でさまざまなアイデアを出し合いました。

今回生まれた気づきやつながりを、今後の地域活動に生かすとともに、地域の皆さんが主体となった活動を支え、つながりを広げる取り組みを進めていきます。

地区社協部 砂越 慎平

2026 夏の風物詩 音頭 提灯 あふれる熱気



ニューヒーロー登場に大歓声（松野台自治会7/18）



初めての神輿乗り。頼もしい心意気が伝わる表情です（加賀町会8/29）



子ども神輿が2年目となり参加者続出（増尾町会8/15・16）

ちびっこ体操教室 親子のふれあい遊び 文化体育部

7月5日(日)に文化体育部主催「ちびっこ体操教室」を、増尾近隣センター体育室において開催しました。酷暑を心配しましたが、幸いにも曇り空になりました。講師はおなじみ石原由紀子先生です。参加者は11組の家族で内訳はちびっ子18名、保護者17名です。

始めにストレッチをして身体をほぐしました。まず水分を取ってから、先生が用意したビニール袋に空気を入れて膨らませ、セロテープで端を閉じるとあら不思議。投げて遊んでもケガの心配のないビニールボールが出来上がりました。思う存分ボールで遊んだ後は、体育室全体にぐるりと設置した遊具で遊びます。先生の後に続き、ピョンピョンと遊具を飛び越えたり、大きな段ボールの中に入りキャタピラーになったり、ビニール製動物に乗りピョンピョン跳ねたり、大きな輪っかを使いけんけん

したり、網で出来た長いおひとり様トンネルをくぐったり。いくつもの遊具で何回も体育室をぐるぐる回って、汗だくになりながら遊びました。

最後にカメラマンの部員が子どもたちの良い笑顔を捉えた写真と、おもちゃのおみやげをプレゼントしました。途中、外ではにわか雨が降ったりしましたが、帰りかけには雨も上がり天気にも恵まれた1日でした。

文化体育部 小林 みつえ



長いトンネルから脱出成功。やったー

ペレニアル 花 倶楽部

梅雨を乗り切る花の寄せ植え

6月9日(火)に10時より増尾近隣センター会議室において「花を楽しむ教室」主宰の園芸ソムリエ山口まり先生を講師にお迎えして、文化体育部主催「2026年度春季園芸講座」を開催しました。参加者は18名でした。

今回は、梅雨に入ったこの時期でも元気に育つアガパンサス サマーラブを主役に宿根バーベナ、ブルーサルビア、

ペンタス、アイビー(ヘデラ)の5種類の寄せ植えです。梅雨時ならではの蒸れによる病気の発生対策、梅雨明け後の暑さへの注意点も学びました。

この寄せ植えとともに元気に梅雨から真夏を乗り切っていきたいと思います。

ペレニアル花倶楽部

小林 一美



幽霊妖怪展 大銀杏の法林寺で開催

恒例の「幽霊妖怪展」が7月19日(日)から23日(木)まで、名戸ヶ谷の法林寺で法林寺檀家主催、名戸ヶ谷町会・柏市教育委員会後援で開催されました。

展示された美術品は、法林寺、彌惣治文庫文芸資料館コレクションから厳選された作品です。彌惣治文庫文芸資料館コレクションに新しく仲間入りした「美人髑髏図(びじんどくろず)」が初めての展示となりました。

約500名が来場し、夏休みとあって家族連れが多く、名戸ヶ谷在住のデザイナー山岸久夫・めぐみ夫妻が子ども

たちに楽しんでもらうために設けたコーナーでは、閻魔(えんま)大王や鬼の被り物などが大人気でした。

初日には朗読芝居「小泉八雲怪談」が開催され、多くの観客で会場が埋め尽くされました。

総務広報部



唐傘おばけの被り物で変身

名戸ヶ谷の今昔と新柏誕生②

名戸ヶ谷町会 藪崎 浩

亀甲台町の誕生

昭和29(1954)年11月15日「柏町・土村・富勢村・田中村」の4町村の合併により、柏市が誕生しました。同年には「土地区画整理法」が制定され、首都圏近郊の郊外に大規模な住宅を建設する目的から日本住宅公団が設立され、昭和32(1957)年に光ヶ丘団地が、昭和38(1963)年には豊四季団地が誕生しました。

こうした流れの中で、昭和36(1961)年柏市第2代の濱嶋千代丸市長の勸奨を受け、名戸ヶ谷字東向根を中心にした小橋戸・小橋台の高台と観音免・弁天落合の水田地帯の約40名の地権者が集まり、組合方式の区画整理事業を発起し、土地区画整理事業を目指した百秀会土地区画整理事業をスタートさせました。委員長他9名の役員を選出し、最も難関となっていた事業資金についても、金融機関からの調達の実現に成功し、柏市を始め関係官庁の指導の下に、昭和37(1962)年12月14日土地区画整理組合設立の県知事許可を得て、造成工事がスタートします。

昭和42(1967)年、亀の甲羅に似たその地形の概要から亀甲台町を町名として名戸ヶ谷から分離されることになります。10年余りにわたる年月を経て、昭和49(1974)年3月、百秀会土地区画整理事業組合解散の認可を受け、同事業が完了することになります。

永楽台町の誕生

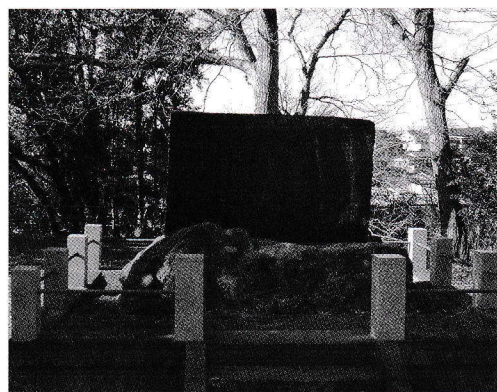
江戸時代の下総台地は、野馬除け土手と谷津(水田地帯)で囲まれた幕府直轄の野生の馬が生息した小金・佐倉牧という広大な原野が広がっていましたが、明治新政府は、江戸の町にあふれていた禄を失った旗本や下級武士達のなりわいの確保が大きな課題となり、小金・佐倉牧の開墾が進められ、13の新しい村が誕生しました。誕生した村々は、開墾の順序や縁起を担いで数字にちなんだ名がつけられました。市域では豊四季村と十余二村の2村が誕生しました。

豊四季村の区域は、現在の柏サッカー場・緑が丘交番から三小通り・柏神社の脇を抜け柏駅までを含み、北側は、南柏駅から豊四季駅までを含む広大な地域でした。野馬除け土手と川の両側に広がる低い土地の谷津田によって各村々と接していました。名戸ヶ谷村の北側には、裏谷津の田んぼが西から東に広がり、古くから名戸ヶ谷の人達が耕作していました。その裏谷津の南側の高台は

「北割・中割・南割・東割」という地名の広大な山林や畑が広がり、名戸ヶ谷村の所有地として管理されていました。

明治・大正・昭和と時代が変わる中で次第に宅地化が進み「東割・南割」地区には「永楽台町会」が、「北割・中割」地区には「豊住町会」が誕生することになりました。名戸ヶ谷には、明治時代の中頃の世帯主58名の名前で登記された共有地が4か所点在しており、その内の1か所が永楽台2丁目の1角に残されています。

昭和46(1971)年には柏第八小学校を創立、翌年には永楽台近隣センターを建設し、今では永楽台町会を始め隣接する東



亀甲台公園上の高台の区画整理を記念する碑

豊住町会、常盤台町会、ひばりが丘町会、日立台町会、亀甲台町会、新あかね町会の地域包括支援センターとして活用されています。

お悔み申し上げます

増尾・新柏地域ふるさと協議会活動に文化体育部員として、長きにわたりご尽力をいただいております中康友さんが2026年6月4日にご逝去されました。広報紙『ふるさと』新年号を飾る写真を提供していただくことが何度もありました。感謝の念に堪えません。心からご冥福をお祈り申し上げます。

ふるさと協議会からのお知らせ

- 10月17日(土) 地域ふれあいのつどい
 - 10月17日(土)～18日(日) 文化祭
 - 10月17日(土)～18日(日) 防災パネル展
 - 11月15日(日) ちいき探検ウォーキング
 - 12月6日(日) こどもちいきフリマ
 - 12月13日(日) 年末防災パトロール
- ※詳細は回覧、チラシなどでお知らせします。

ボランティア募集中

障がい者福祉施設で、毎月第2・第4水曜日、午前9時30分から12時まで、簡単な作業(園芸、手芸他)のお手伝いをしてくださる方を募集中。

地区社協部 田嶋(TEL 7172-4683)まで、お問い合わせください。